

むらやま・学校統合だより <GO TO TO-GO>

第8号



編集・発行
村山市教育委員会
学校統合推進室

統合タイムズ

【コミュニティ・スクール (CS) 発足へ一歩一歩】

令和8年度からの「学校運営協議会制度」導入に向け...

学校向けの研修会 開催

TOP INFORMATION (Topics) = 「コミュニティ・スクール②」



【令和8年度内スタート】

村山市では、間もなく迎える新年度内に、市内の全校で、コミュニティ・スクール(=学校運営協議会制度:CS)を導入予定です。

この制度のスタートに向け、このほど、学校教職員向けに、研修会を開催しました。

各校から集まった先生方は、熱心に受講し、CSについての理解を深めました。(裏面参照)

【対面式・WEB配信のハイブリッド型で行われたコミュニティ・スクール研修会】

- 講師：村山教育事務所・社会教育課・小関直幸社会教育主事 (CS担当)
- 期日：2026年2月10日 (火) 午後3時半～4時45分
- 会場：村山市役所 会議室 (小集会室)

※コミュニティ・スクール(CS)は、「<学校運営協議会>を設置した学校」のこと

で、9年前の法改正で、その設置が努力義務化されました。

現在、県内のCS導入率は約73% (全国は72%) まで進んでいます。

なお「統合タイムズ (第4号)」で特集していますので、併せてご覧ください。



当日は、学校にいても聴講できるようにWEBでも配信しました。

統成人語

「ユニ・フォーム」は、メンバーが同じ服装で、集団の一体感や連帯意識を高める効果があるとされる。野球やサッカー、祭りなどチームプレーには欠かせない。この「ユニ」は、ラテン語由来の接頭辞で、英語でいう「one」(一つ)を意味する。ユニ...といえは鉛筆最大の三菱鉛筆の「uni」は「唯一無二の高品質な」ということから「ユニ」は「ユニ」の主力工場の一つは、本県川西町にある▼さて、イグ・ノーベル賞という面白い賞がある。ノーベル賞のパロディとして約30年前に創設された。日本は英国と並ぶ入賞常連国だ。19年連続で最新回でも入賞した。黒毛和牛の体をシマウマのように縞模様を塗ると、吸血昆虫などが寄りつきにくくなるという「シマウシの研究」など。なんと本県小国町などで実証研究が行われた。「イグ」は否定の接頭辞だが、受賞内容は本家を凌ぐほど実内容にユニク▼先日、群馬県が「不登校」に代わる呼び方として「ユニパス」という高校生提案の造語を公式採用した。「ユニクな(一人ひとりの)パス(道)」を尊重しようという意味が込められている。全国的にどこまで広がるかだが、こんなプラス思考のアイディア、イグね?(いいよね!)

■コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の令和8年度内導入 東部・西部共通

■CSについての理解を深める研修
 ~「コミュニティ・スクールの基礎・基本」から
 「導入のメリット・魅力」など必要知識を学ぶ~
 * * *

令和8年度からのCS導入に際し、学校全体で共通理解を図っておく必要があることから、今回、教育委員会主催で『CS研修会』を開催しました。
 この研修会では、コミュニティ・スクールとは何かといったCSの基礎・基本をはじめ、国・県の導入状況、CSの3つの機能、導入で生まれる魅力、CSが有効に機能するための「地域学校協働活動」など、CS導入にあたって必要となる知識やノウハウを学び、理解を深めました。
 そのなかで、「学校運営協議会」を設置し、話し合いを重ねながら、地域の思いや願いを実現できるよう、地域と学校とが互いに「連携・協働」し、活動や取組ができる体制づくりが大切で、そのために「熟議」の

場を設けること、CSをうまく機能させるためには、何より学校長のマネジメント力が大切であることなど、重要ポイントを絞って説明がなされました。
 また、「学校運営協議会」をいい形で進めるためには、「委員の選定」(どんな方に委員になっていただくか)、この協議会で話し合われたことがきちんと「地域学校協働活動」として実践されるか、さらには学校のニーズと地域の思いを受け活動を調整するつなぎ役の「地域コーディネーター」の役割が重要であることなどが紹介されました。
 また、講師の説明のあと、質疑応答も活発になされました。「地域コーディネーター」の人選についての質問に対しては、実例では教員経験者が多いものの、何より学校のことを理解しながらうまくついでくれる方が相応しい、といった助言がありました。
 参加者からは、新年度の導入に向けて、意義ある研修会であったとの感想が聞かれました。

【コミュニティ・スクール(=CS)】のポイント図解 (研修会資料より「抜粋」)

CSの魅力

- 子どもにとって
 - ・ 学びや体験活動が充実する。
 - ・ 自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。
 - ・ 地域の担い手としての自覚が高まる。
- 地域にとって
 - ・ 経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながる。
 - ・ 学校が地域のよりどころとなる。
 - ・ 学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域課題の解決につながる。
- 保護者にとって
 - ・ 地域や学校に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれる。
 - ・ 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感が得られる。
 - ・ 保護同士や地域の人々との人間関係が構築される。


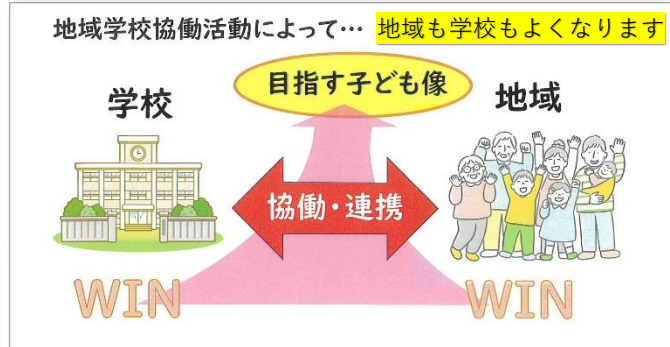
教職員にとって

- ・ 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となる。
- ・ 地域の協力により、子どもと向き合う時間が確保できる。
- ・ **地域学校協働活動**が充実する。



地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)
 学校のニーズと地域の思いを受け、「連携・協働」の中で一緒に活動を作り、調整する役割を担う。

地域にいるその道の**“プロ”** 地域特有の他にはない**“財”** 地域にある様々な**“情報”**

- 学校で行われている地域学校協働活動 (一例)**
- 国語 … 短歌、俳句、詩、書き初めなどの学習
 - 社会 … 地域学習、歴史、産業などの学習
 - 算数 … かけ算、そろばん、統計などの学習
 - 理科 … 動植物などの学習
 - 音楽 … 合唱、リコーダー、鍵盤ハーモニカなどの学習
 - 図工 … 絵画、工作などの学習
 - 家庭 … ミシン、調理などの学習
 - 体育 … 水泳、スキーなどの学習
 - 総合 … 植物の栽培、地域学習
 - その他 … 読み聞かせ、日本の文化や伝統芸能、金管バンドの指導、環境整備、キャリア学習、クラブ活動の補助、部活動の補助

目指すゴールは 学校を核とした **地域づくり**



詳しくは (↑) 文部科学省のコミュニティ・スクール特設サイトをご覧ください。



※地域向けの説明会等は、追って開催予定です。